

2014年9月21日 主日礼拝
説教「行って宣べ伝えなさい」
マタイの福音書 10章 1-15節

【権威を授けられた私たち】

弟子たちに主イエスは、「汚れた霊どもを制する権威をお授けになった」（1）とあります。主イエスには、悪霊であれ、病であれ、罪と死の力であれ、それらを制する権威がある。そして、弟子たちに権威をお授けくださったのです。12弟子だけではありません。2節では、わざわざ、12使徒と言い換えられています。使徒は教会の柱ですから、権威は教会にあたえられています。つまり、私たちにも。権威の源は、授ける人にあります。どんなに立派な人でも、与えられなければ、権威をもたない。反対に、どんなに、力がなくても、主イエスが権威を与えてくださるならば遣わされていくことができるのです。主イエスの任命を受けた弟子である私たち。簡単に、「私はダメだめです」、と言ってはならない。それは、主イエスを悲しませることです。

【平安を祈るあいさつ】

弟子たちが遣わされて行ってすべき最初のことは、「平安を祈るあいさつ」。ユダヤのあいさつは、しっかりと抱きしめて、「シャローム」と言うのです。シャローム、「あなたに平安がありますように」という意味。ここに伝道とは何か、その本質が示されています。

ます。それは、人々をしっかりと抱きしめること。そして神さまからの平安があなたにあるように、と心から祈りをこめて、あいさつすることなのです。

もちろん、現代の日本で、いきなり人を抱きしめるというようなことは、奇妙なふるまい。また実際にそうする必要もない。私たちのうちにある祝福を込めてあいさつし、語りかける、それでよいのです。

私たちのうちにある祝福と言いました。私たちは、弱い。しばしば、「私のうちに祝福があるのだろうか？」と不安になったりします。でも信じる者のうちには、キリストが住んでおられる。このキリストが祝福を、あふれさせてくださっている。だから、私のうちには祝福があるし、その祝福を注ぐことができる。なるほど私たちは、しばしば、自分がどれほど祝福の器かと不安になります。けれども、自分の感覚に頼ると間違えます。キリストが私たちのうちにおられる、これは私たちが感じなくても事実なのです。

【小さいキリスト】

ルターは、こんなことを言っています。「キリストを信じて、従って行く人は、みんなキリストになる、小さいキリストになる」と。それは、私たちのうちにキリストのいのちが始まっているからです。だから、私たちが、だれかの前に現れるなら、それはキリストが

現れることです。私たちを通して、キリストが、その人を祝福するのです。私たちを通して、キリストがその人をしっかりと抱きしめてくださるのです。

私たちは、伝道の方法を議論することが多い。けれども、どの方法をとるにしても、私たちが小さいキリストであることを、覚えておくことが、いちばんたいせつです。

【権威の重大さ】

私たちの権威は、仕える権威。けれどもそれが、権威である以上、あなどることができないものです。「その家がそれにふさわしい家なら…もし、ふさわしい家でないなら…」(13)は厳粛です。私たちを受け入れるかどうかで、その人が、平安を受け取るかどうか、そして、小さいキリストになるかどうか、決まるのです。だから、一度拒否されたとしても、私たちはあきらめることができない。祈り続けるのです。私たちの家族のためにも、八幡市の人々のためにも。

私たちが遣わされていく場所は、まず何よりも、それぞれの生活の場です。私たちの周囲の人々に福音のこぼれを手渡すことができる私たちは幸い。そのために必要な人々への愛と、人々にそそぐべき祝福と、キリストから授けられた権威は、すでに私たちとともにあります。福音を宣べ伝える存在とされているお互いを、今日も喜びましょう。